

ビール・発泡酒・新ジャンル商品の 酒税に関する要望書

2024年8月

ビール酒造組合

ホームページ <https://www.brewers.or.jp>

会長代表理事 **松山 一雄**

会員会社
アサヒビール株式会社
キリンビール株式会社
サッポロビール株式会社
サントリー株式会社
オリオンビール株式会社

発泡酒の税制を考える会

ホームページ <https://www.happoshu.com>

会 長 **松山 一雄**

会員会社
アサヒビール株式会社
キリンビール株式会社
サッポロビール株式会社
サントリー株式会社
オリオンビール株式会社

酒税に関する要望事項

平成 29 年度税制改正により、ビール・発泡酒・新ジャンル商品※の酒税率は段階的に見直され、2026 年 10 月に 1 kℓあたり 155,000 円に統一されることになっています。これによりビールの税率は、1 kℓあたり 65,000 円の減税となる一方、発泡酒は 20,750 円、新ジャンル商品※は 75,000 円の増税となります。また、同じ発泡性酒類に分類される「その他の発泡性酒類」は、1 kℓあたり 100,000 円となります。

ビール・発泡酒・新ジャンル商品トータルの市場規模は直近 10 年間で 2 割近く減少し、1994 年のピーク時の 6 割となっています。需要は厳しい状況が続いています。

ビールメーカー各社は、平成 29 年度税制改正を踏まえ、中期的な対応をすすめています。

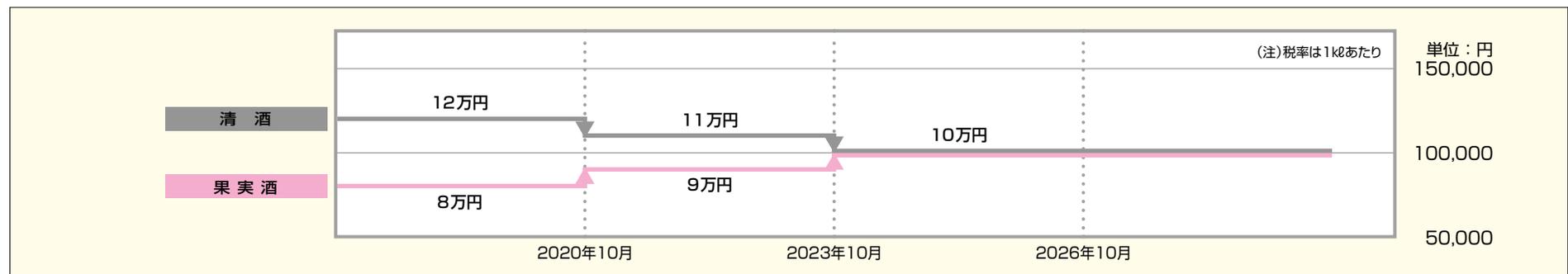
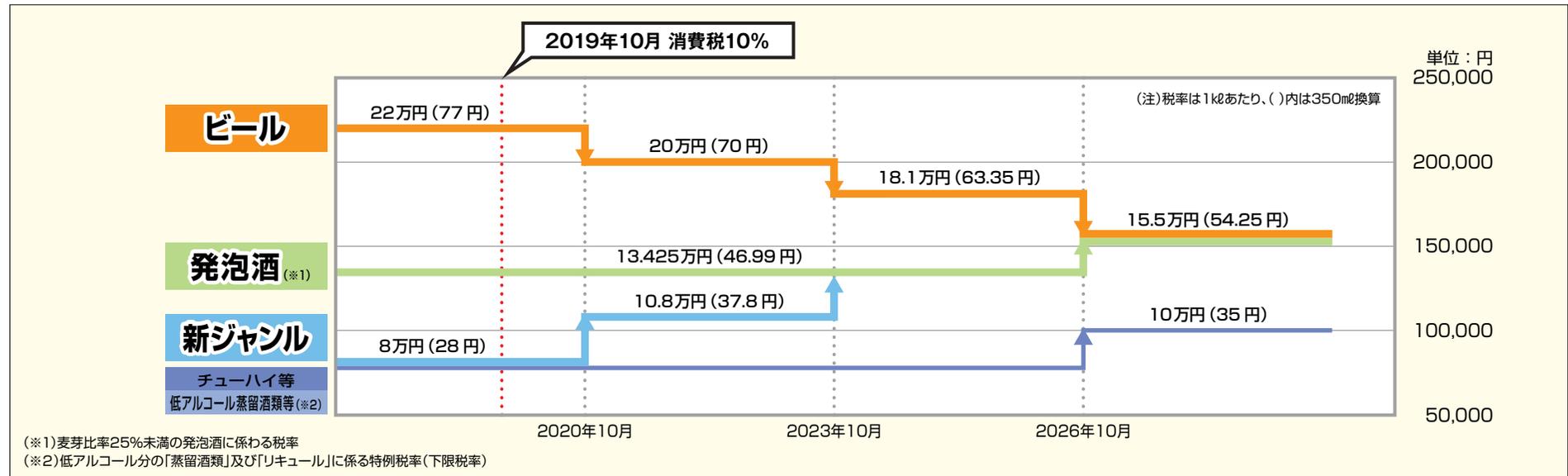
しかしながら、2026 年に統一されるビール・発泡酒の税率は、他の酒類と比べ依然として格差があり、諸外国と比べても高いといえます。

私たちは、ビール・発泡酒のさらなる減税を要望します。

平成29年度 酒税改正の概要

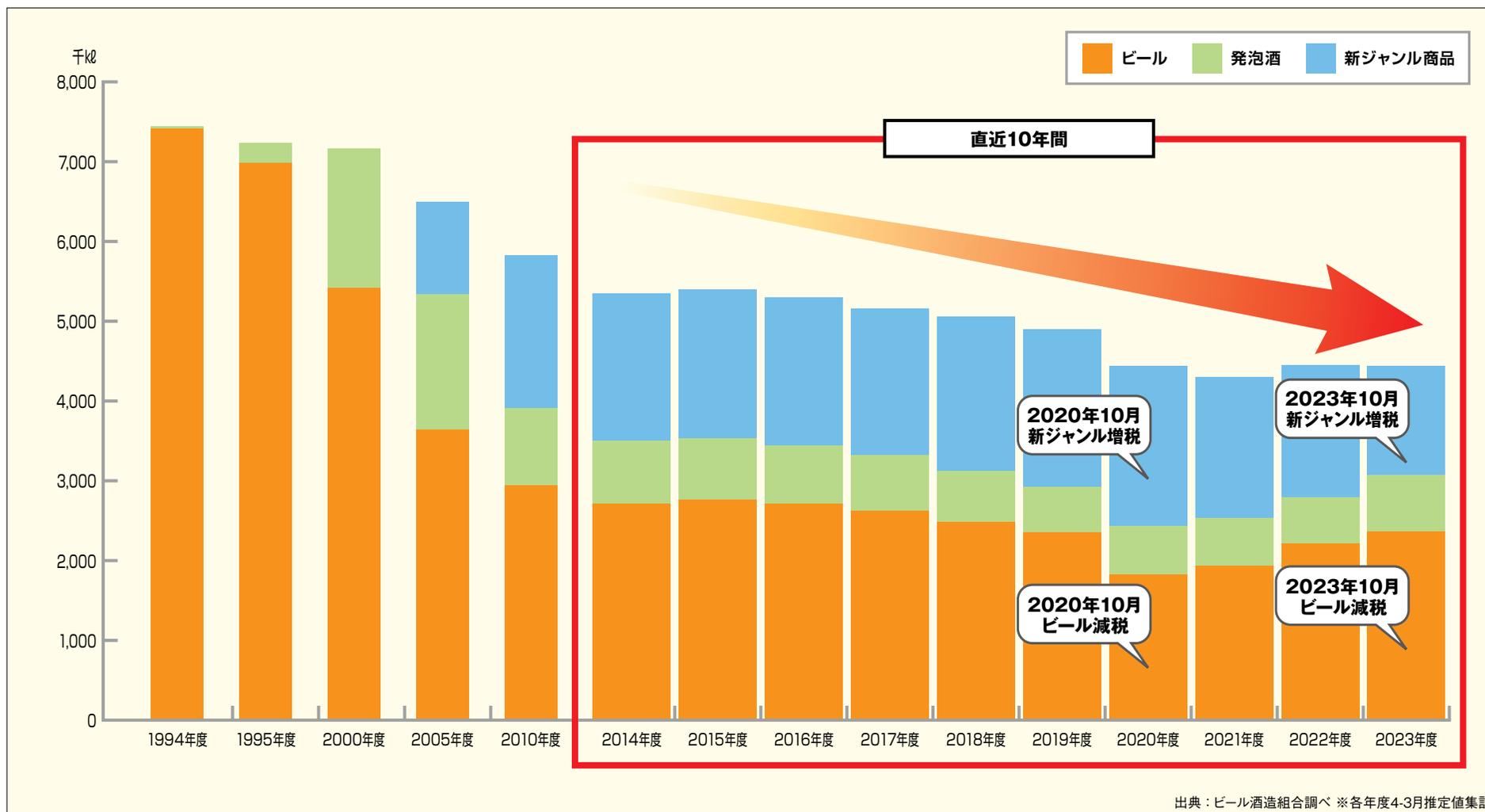
- 税率の見直しは、消費者や酒類製造者への影響に配慮して、十分な経過期間を確保しつつ段階的に進めます。
 - 今回の改革は、厳しい財政状況や財政物資としての酒類の位置付け等を踏まえ、税込中立で行います。
 - 税率の段階的な見直しは、その都度、経済状況を踏まえ、酒税の負担の変動が家計に与える影響等を勘案した上で実施します。
- 出典：パンフレット「平成29年度税制改正」平成29年4月財務省(財務省ホームページ)

税率構造の見直し



ビール・発泡酒・新ジャンル商品の市場推移

ビール・発泡酒・新ジャンル商品トータルの市場規模は直近10年間で2割近く減少し、1994年のピーク時の6割となっています。

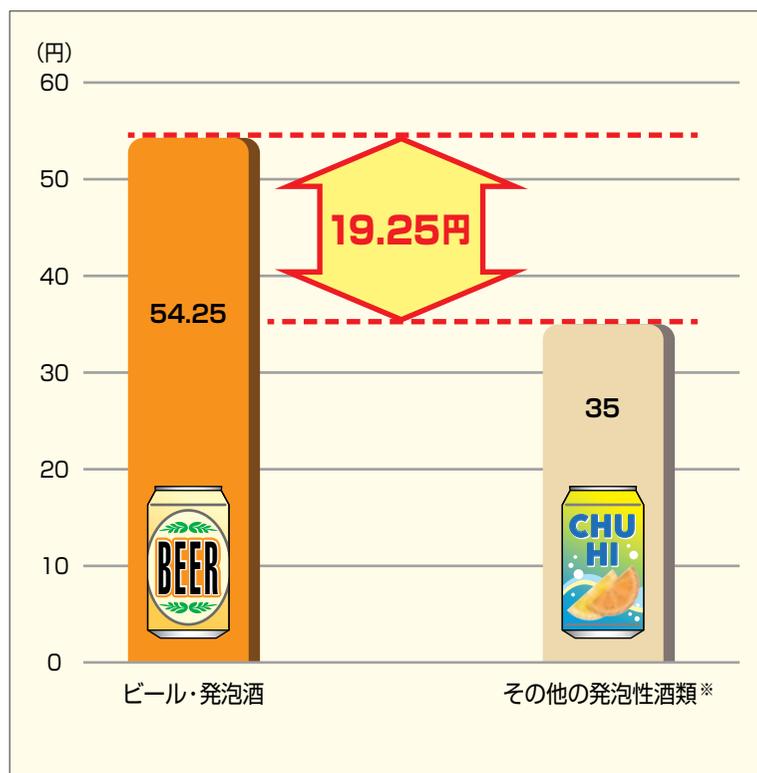


出典：ビール酒造組合調べ ※各年度4-3月推定値集計

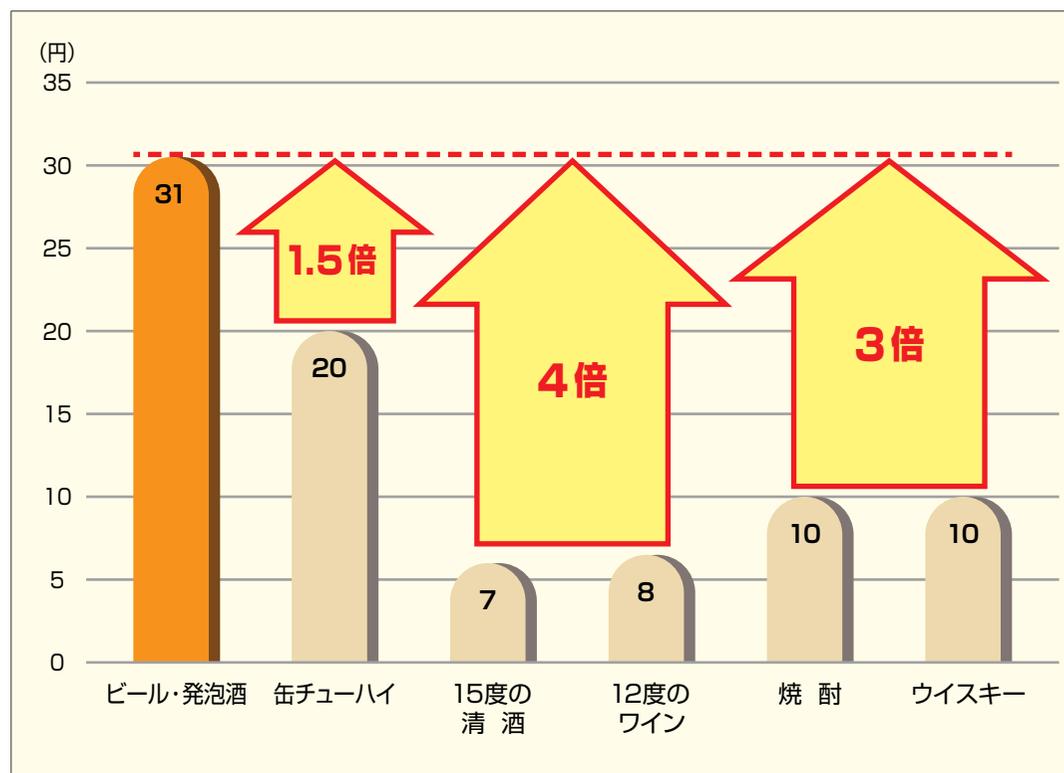
酒税の税率 (2026年10月以降)

ビール・発泡酒の税率1ℓあたり155,000円を350ml缶換算でその他の発泡性酒類(缶チューハイ等)と比較すると、約20円も高くなっています。
さらに、アルコール1度1ℓあたりで比較すると、缶チューハイの約1.5倍、醸造酒類の約4倍、蒸留酒類の約3倍もの高い税率が課されています。

1缶(350ml)あたりの酒税額



1度1ℓあたりの酒税額



※ホップ及び一定の苦味料を原料としない酒類、缶チューハイ等

諸外国との酒税額比較 (日本は2026年10月以降の数値)

ビール・発泡酒の税率1ℓあたり155,000円の酒税負担は、国際的に見ても、非常に高率かつ高額で、フランスの約2倍、ドイツの約10倍、アメリカの約5倍もの負担となっています。

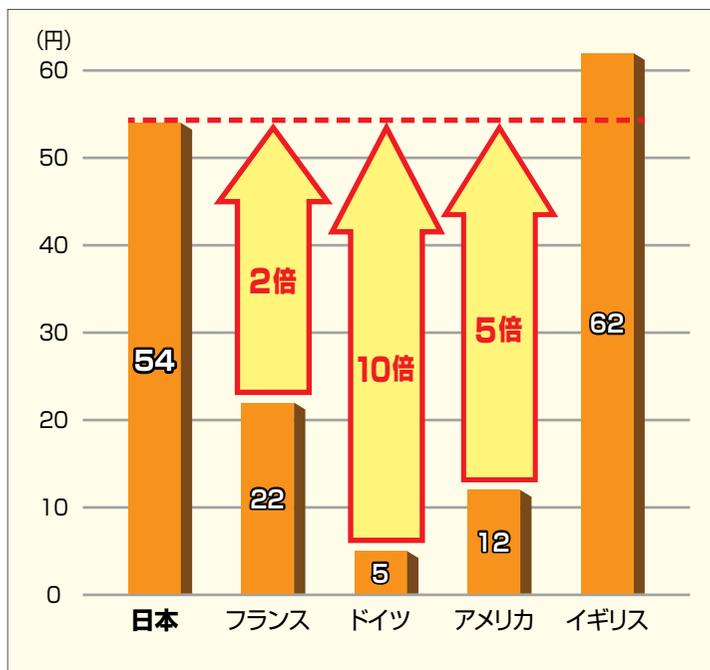
また、醸造酒であるビールに対して、アルコール分1度あたりで、蒸留酒に比べ高い酒税を課しているのは、主要諸国の中で日本だけです。

※欧米ではおおむね、蒸留酒には高い税率、醸造酒であるビールやワインには低い税率が標準となっています。

ビール・発泡酒の酒税

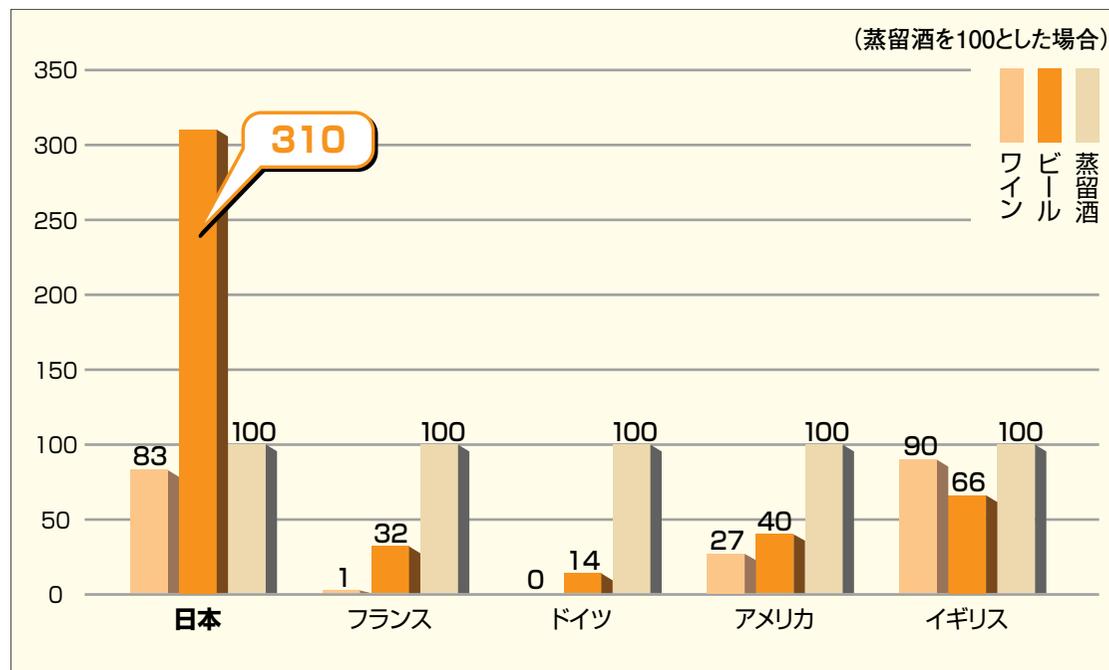
350ml缶あたりに占める酒税負担額

※各国は350ml缶あたりに換算した酒税額



ビール・ワイン・蒸留酒の酒税

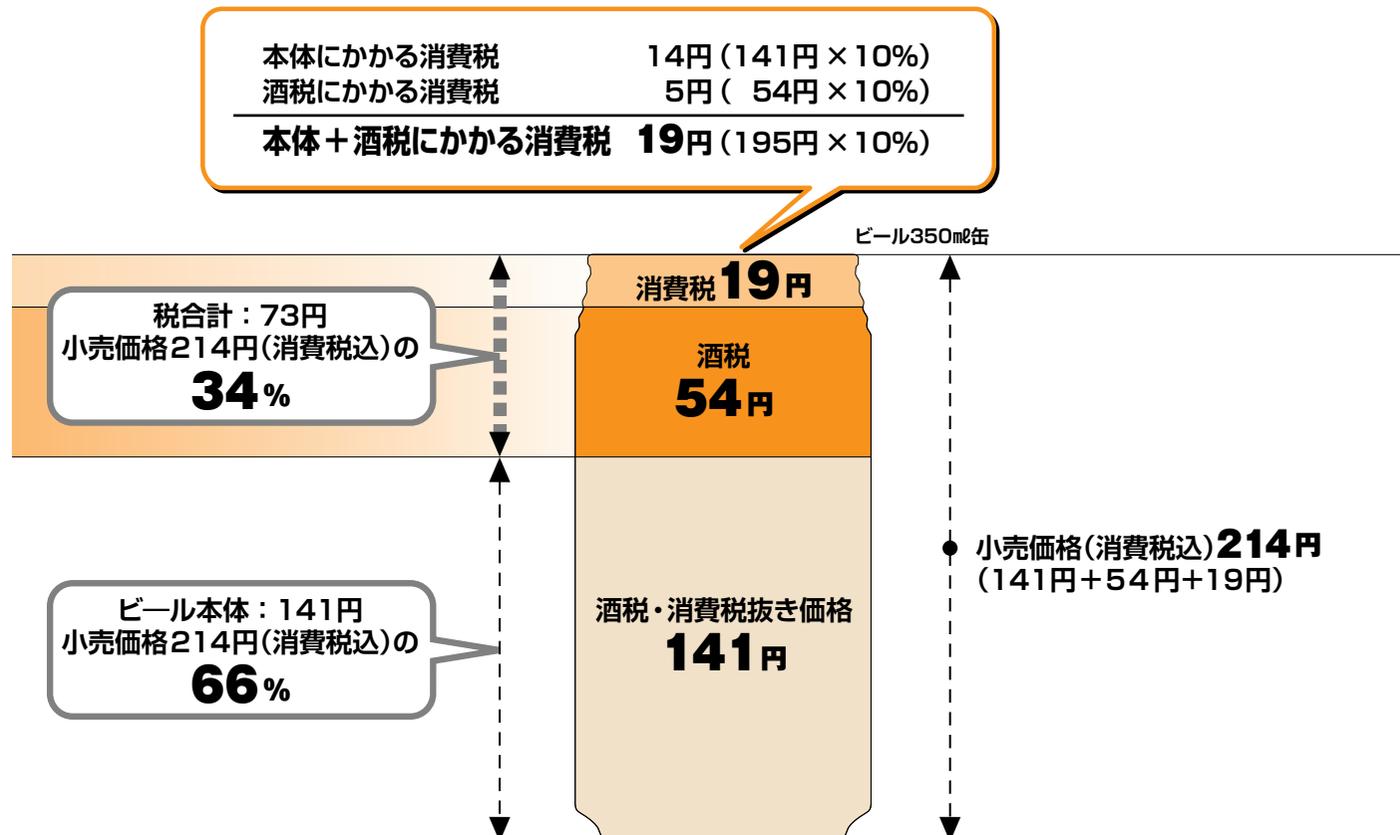
主要諸国におけるアルコール分1度あたりの酒税額指数



出典：ビール酒造組合調べ(2024年1月)、アメリカはニューヨーク市のデータ、邦貨換算レートは2024年1月における実勢相場の平均値、端数は四捨五入

小売価格に占める酒税、消費税 (2026年10月以降)

ビールでは小売価格(消費税込)の約34%が税金となっています。
酒類には酒税と消費税が併課されており、ビール350ml缶で見ると、酒税は54円、消費税は19円(内5円は酒税にかかる)となります。

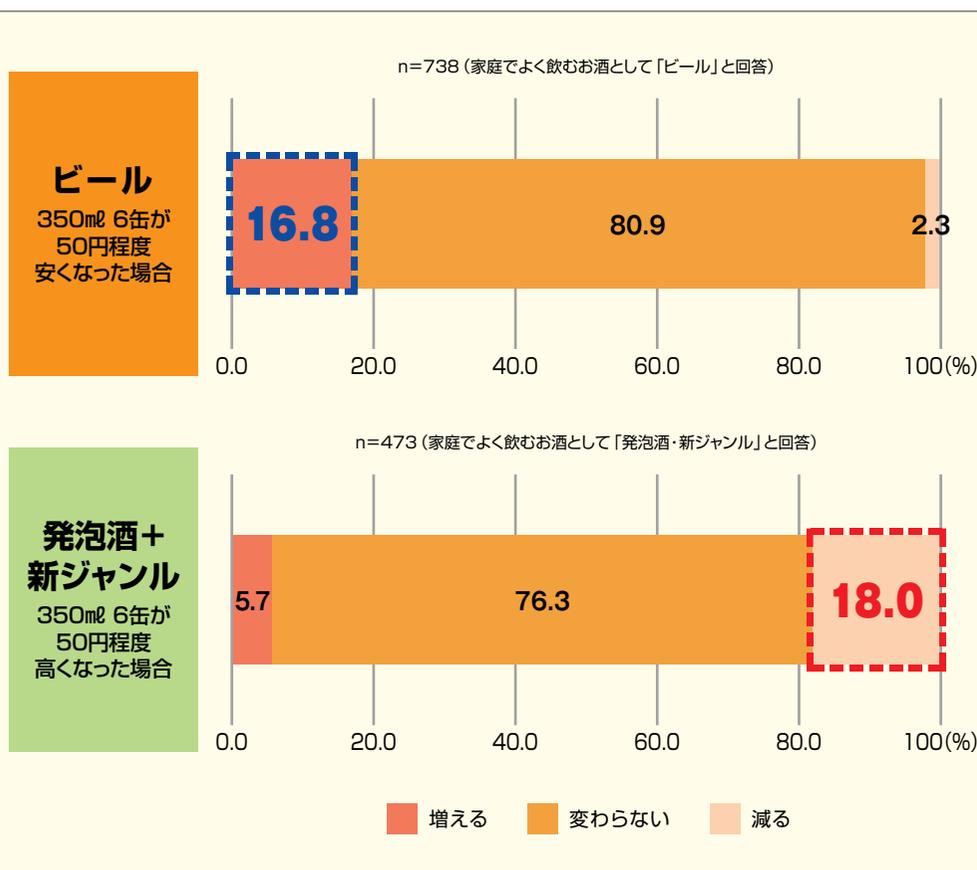


※現行のコンビニエンスストアの本体価格をベースに、新たな酒税と、消費税10%で算出
※円未満は四捨五入

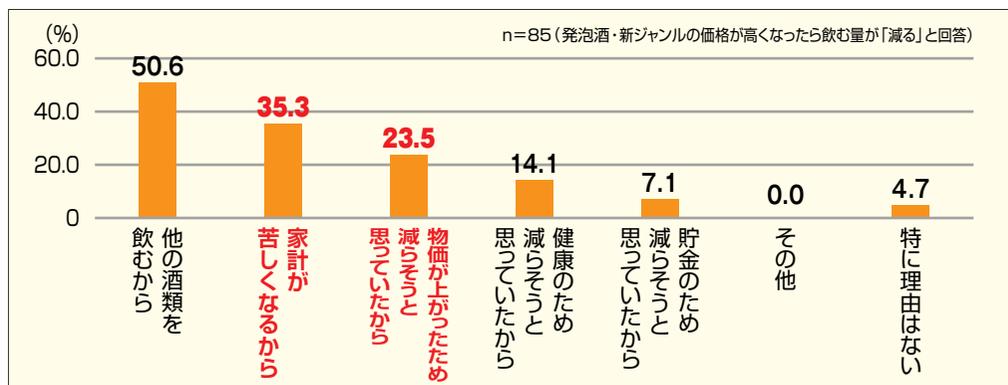
消費者の皆様の声 (2024年5月ビール酒造組合実施アンケートより)

消費者はビール系飲料の販売価格の変動に対し、敏感に反応します。
販売価格が高くなると、消費者の生活防衛意識が働き、消費の停滞が懸念されます。

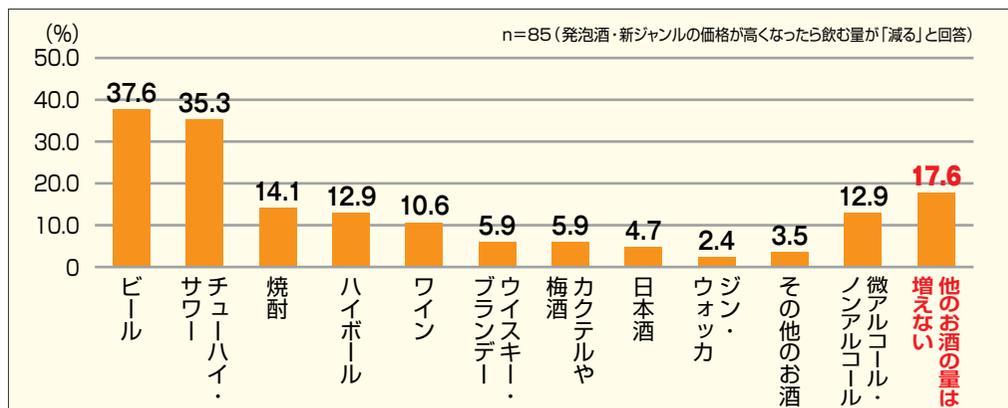
Q. ビール、発泡酒・新ジャンルの価格が変わった場合、
飲む量はどのように変化すると思いますか？



Q. 発泡酒・新ジャンルの価格が高くなったら飲む量が減る理由は？



Q. 発泡酒・新ジャンルの代わりに何を飲みますか？



消費者の皆様の声 (2024年5月ビール酒造組合実施アンケートより)

ビール系飲料の税負担率が高いと感じる消費者は約6割いらっしゃいます。

Q. 2026年には、小売価格の34%程度になると想定されるビール系飲料の税負担(酒税+消費税)についてどのように思いますか?

高い
59.8%

安い
4.4%

適正
12.4%

わからない
23.3%

(n=1200)

酒税に対する意見(抜粋)

- ✓ あまりに高くなるようなら、お酒の量を減らすか、やめるしかない。(60代女性)
- ✓ お酒を飲むことは贅沢に思えるかもしれない。(40代女性)
- ✓ ビールは主に外食でしか飲まないが、価格が高くなれば飲む機会は確実に減るであろう。(40代男性)
- ✓ 税金が少しでも安くなると購買意欲が高くなると思います。(40代女性)
- ✓ 税制が変わると発泡酒や新ジャンルのお得感がなくなる。(50代男性)
- ✓ 物価が高い状況で、さらに税金がかかり値上げする場合、購入をためらってしまうと思う。(20代女性)
- ✓ 税金を上げて収入を増やすでは無く、消費が増える方法に考え方を変えた方が良い。(70代男性)
- ✓ 他の主要国並みにしてほしい。(60代女性)

参考

加盟各社の代表的な製品

	アサヒビール	キリンビール	サッポロビール	サントリー	オリオンビール
ビール	 アサヒスーパードライ	 キリン一番搾り生ビール	 サッポロ生ビール黒ラベル	 ザ・プレミアム・モルツ	 オリオン ザ・ドラフト
発泡酒	 アサヒスタイルフリー	 淡麗グリーンラベル	 サッポロ極ZERO		 麦職人
新ジャンル商品※	 クリアアサヒ	 キリンのどし(生)	 サッポロ GOLD STAR	 金麦	 サザンスター

※2023年10月以降、新ジャンル商品の品目表示は「発泡酒②」となりました

ビール酒造組合

ホームページ <https://www.brewers.or.jp>

発泡酒の税制を考える会

ホームページ <https://www.happoshu.com>